

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 5 年 6 月 20 日(2023.6.20)

【公開番号】特開 2022-140456(P2022-140456A)

【公開日】令和 4 年 9 月 26 日(2022.9.26)

【年通号数】公開公報(特許)2022-176

【出願番号】特願 2022-109808(P2022-109808)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/44(2006.01)

G 0 2 B 5/20(2006.01)

C 0 8 F 292/00(2006.01)

【F I】

C 0 8 F 2/44 A

G 0 2 B 5/20

C 0 8 F 292/00

10

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 6 月 12 日(2023.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

半導体粒子(A)、光重合性化合物(C)、及び光重合開始剤(D)を含む感光性組成物であって、

前記光重合性化合物(C)が、ビニルエーテル基と(メタ)アクリロイル基を同一分子内に有する化合物(C2)を含む、感光性組成物。

20

30

【請求項 2】

前記光重合性化合物(C)が、分子量 180 以下である(メタ)アクリレート化合物(C1)を含む、請求項 1 に記載の感光性組成物。

【請求項 3】

前記化合物(C1)の 25 における粘度が、1.2 cP 以下である、請求項 2 に記載の感光性組成物。

【請求項 4】

前記化合物(C1)の含有量が、感光性組成物の総量に対して、5 質量%以上、50 質量%以下である、請求項 2 又は 3 に記載の感光性組成物。

【請求項 5】

前記化合物(C2)の含有量が、感光性組成物の総量に対して、5 質量%以上、50 質量%以下である、請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の感光性組成物。

40

【請求項 6】

前記感光性組成物が、更に安定化剤(E)を含み、
前記安定化剤(E)の含有量が、感光性組成物の総量に対して、8 質量%以上である、請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項 7】

前記安定化剤(E)の含有量が、感光性組成物の総量に対して、16 質量%以上である、請求項 6 に記載の感光性組成物。

【請求項 8】

50

前記半導体粒子 (A) の含有量が、感光性組成物の総量に対して、16質量%以上、45質量%以下である、請求項1～7のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項9】

前記光重合性化合物 (C) が、カルボキシル基と、カルボキシル基以外の3つ以上の官能基とを同一分子内に有する化合物 (C 3) を含む、請求項1～8のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項10】

前記化合物 (C 3) の含有量が、前記半導体粒子 (A) 100質量部に対して、25質量部以上、100質量部以下である、請求項9に記載の感光性組成物。

【請求項11】

前記感光性組成物の40における粘度が20cP以下である、請求項1～10のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項12】

前記光重合開始剤 (D) の含有量が、前記光重合性化合物 (C) 100質量部に対して、8質量部以上、50質量部以下である、請求項1～11のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項13】

前記感光性組成物が、更に、体積基準のメディアン径が0.15μm以上の光散乱剤 (B) を含む、請求項1～12のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項14】

前記感光性組成物が、更に溶剤 (F) を含み、
前記溶剤 (F) の含有量が、感光性組成物の総量に対して、3.5質量%以下である、請求項1～13のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項15】

インクジェットプリンター用インクである、請求項1～14のいずれかに記載の感光性組成物。

【請求項16】

温度40以上で、インクジェットプリンターの吐出ヘッドから吐出する、請求項15に記載の感光性組成物の使用。

【請求項17】

請求項1～15のいずれかに記載の感光性組成物から形成される硬化膜。

【請求項18】

垂直寸法が9μm以上および/または水平寸法が10μm以上900μm以下である、請求項17に記載の硬化膜。

10

20

30

40

50